

# 中国語の唇音と母音oの組み合わせについて ——教育上の問題を中心に

## On the combination of labials and the vowel sound 'o' in current Chinese ——focus on issues and problems in teaching

羅 沢宇

英語・中国語教育センター

LUO Zeyu

The English and Chinese Language Education Center

本稿では、中国語の唇音（子音b、p、m、f）と母音oの組み合わせが、教育の現場においてどのように教えられているのか、教科書・参考書の記述と映像資料の説明を中心に調査した。

その結果を先行研究と突き合わせ、一般的な教え方が実際の発音と齟齬があったことを再確認した。要するに、bo、po、mo、foは本来buo、puo、muo、fuoの省略形であり、日本語の「ぼ、も、ふお」の発音とまったく違うものである。しかし、「注音符号」を踏襲した『漢語拼音方案』に一切説明がなかったため、教科書等もそれを追従し、触れないことが暗黙の了解のようである。それが、教育の現場のみならず、ネイティブでさえも困惑するゆえんであり、今日に至っている。

最後に、筆者が自分なりの改正案を提示し、この問題についてより多くの方に認識してもらうよう促した。

This paper first verified how the combination of labials(consonants 'b,p,m,f') and the vowel sound 'o' in current Chinese are commonly taught by literature surveys and reviewing popular textbooks and audio-visual education materials published in Japan.

Combinations, such as 'bo', 'po', 'mo' and 'fo' were found to be shortened forms of 'buo', 'puo', 'muo' and 'fuo', which are totally different from the Japanese bo(ぼ), mo(も) and fo(ふお). However, this fact has long been ignored even up to now by most textbooks and education materials, due to no remark of this issue in "the Scheme for the Chinese Phonetic Alphabet", which confuses not only Chinese teachers and learners but also native speakers.

This paper urges that this issue should be fully recognized in academic circles and presented as an improved model of teaching.

### 1. はじめに

本学で開講している第二外国語<sup>1</sup>のうち、母音と子音の数が多く、音節ごとに声調（トーン）変化がある中国語<sup>2</sup>の発音は、日本人学習者にとって、特に難しい部類に入る。

入門の段階で、よく発音の難関とされているものには、四声、日本語にない母音（例えば、e、u、ü）、そり舌音（zh、ch、sh、r）、有気・無気の対立（例えば、b/pの対立）、鼻母音（n/ngの対立）などがあるが、本稿が議論する唇音（子音b、p、m、f）と母音oの組み合わせに関しては、管見の限り、さほど問題にされていないようである。入門レベルの教科書は母音o、およびoと唇音との組み合わせに紙幅を割くものはほとんどなく、参考書や映像資料の説明からも、教育の現場では特に問題視されないことが窺える。たとえ中国語の教員であっても違和感を覚えない人が多く、実際教壇に立って問もない頃の筆者もその一人だった。

しかし、果たして本当に教育の現場では問題が起きていないのだろうか。

### 2. 問題の所在

#### 2.1. 一般的な教え方

まず、入門の段階で母音oと唇音（b、p、m、f）を導入する際、最も一般的な教え方を確認しよう。

##### a) 母音oの導入

中国語の母音oは「日本語の『お』よりも少し唇をま

るく突き出して発音する」（相原・蘇2017：11、小野ほか2013：7など）とする教科書が多いようである。それに「口の奥から」という解説を付け足すものもある（例えば、劉・塚本2014：6）。

##### b) 唇音の導入

子音を導入する際、「子音だけでは発音は弱いので、母音をつけて発音する」（例えば、映像資料「快音」DVD）とし、唇音b、p、m、fの場合は、母音oと組み合わせ、b(o)、p(o)、m(o)、f(o)の形で導入するのが慣習である。

##### c) 有気b・無気pの弁別

（教育上の難関とされているが、本稿では展開しない。）

##### d) 発音練習

「有気・無気」を説明したのち、直ちに子音表bo、po、mo、foの発音練習を行う。

##### e) つづりの確認

最後に、漢字「波」、「坡」、「摸」のような発音は、ピンインでbō、pō、mōとつづるべきだと教え込む。

そのうち、a)の母音oについては、日本語の「お」よりも少し唇をまるくすばめて発音する、といった要領で指導するのが基本であるが、実践上、基本日本語の「お」の要領で発音されても特に支障はない。（平井2012：29-30）

そして、b)の唇音の導入に関しては、ローマ字通りであることもあって、ほとんど説明を加えず、主にc)の有気b・無気pの対立と弁別を中心に説明するのが一般的な

<sup>1</sup> 中国語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、韓国語、インドネシア語、ポルトガル語の七か国語。

<sup>2</sup> 本稿では特に断りがない場合、中国語の共通語「普通話」を指す。

ようである。

## 2.2. 教育現場の困惑

この一般的な教え方をモデルに、母音oと唇音を導入した後、直ちに子音表の発音練習を行うと、筆者の経験上必ずといっていいほど、bo、po、mo、foをローマ字つづりのとおり、日本語の「ぼ、ぽ、も、ふぉ」に置き換えて発音する学生が多く出てくる。ローマ字表記になじみの深い日本人の学生ならなおさらである。

しかし、CDなどから流れてくるbo、po、mo、foの手本の響きは明らかに日本語の「ぼ、ぽ、も、ふぉ」とは異なる。それはなぜだろうか。また正しい発音はどちらなのか、どうやって教えればよいのか、初心者と新米教員は瞬く間にパニックに陥る。

もちろん否応なしに学生にCDの発音に追従して読ませておけばその場逃れのこともできなくもないが、やはりこれでいいのだろうかという疑念は解消されない。このような場合、通常、教科書や参考書が拠り所である。そこで、教科書と参考書の記述を確認してみることにする。

## 2.3. 教科書の記述

筆者は2017年頃に、その時点で手元にあるすべての入門レベルの教科書を対象に調査を行った。

5年以内（当時、2013～2017年）に出版された比較的新しい教科書を抽出し、さらに同じ著者によって編集されたものは刊行年の新しい方を選び、最終的に8冊を調べた。

調査は主に母音o、および唇音（b、p、m、f）との組み合わせに関する説明を確認した。結果は表1のとおりである。

【表1 母音oと唇音の説明—教科書】

書名（出版年順）	母音o	唇音とo
1) 小野秀樹, 木村英樹, 張麗群, 楊凱米, 吉川雅之. (2013). 現代漢語基礎 (改訂版). 白帝社.	a)	記述なし
2) 陳淑梅, 劉光赤. (2014). シャベっていいとも中国語 トータル版. 朝日出版社.	a)	記述なし
3) 劉穎, 塚本慶一. (2014). 最新版 1年生のコミュニケーション中国語. 白水社.	a)	記述なし
4) 岩井伸子, 胡興智. (2015). できる・つたわるコミュニケーション中国語. 白水社.	a)	記述なし
5) 朱春躍, 崎原麗霞. (2015). Start! キャンパス中国語. 朝日出版社.	実際の発音はuoと同じ。「ウオー」と発音する(p8)	記述なし
6) 竹島毅, 趙昕. (2015). さあ、中国語を学ぼう!—会話・講読. 白水社.	a)	記述なし
7) 楊凱米, 張麗群. (2015). LOVE! 上海. 朝日出版社.	a)	記述なし
8) 相原茂, 蘇紅. (2017). どちらがう? 似たもの中国語. 朝日出版社.	a)	記述なし

表1が示したように、8冊のうち、5)以外は、すべて§2.1で述べた一般的な教え方を踏襲している。5)に関しては、編集者の一人である朱氏は音声学が専門であり、本稿のトピックについて調査を行った数少ない研究者であったため、特殊な存在となっている。朱氏の研究は次章で取り上げる。

なお、本稿を執筆する際、改めて手元にあるここ2年（2018～2019年）の間に刊行された教科書と一部2013年の前に出版された教科書、計30種類以上確認したが、本稿の記述を覆すものは見当たらなかった。

## 2.4. 参考書の記述

教科書は編集者の方針によって、最初から詳しい解説を排除するものもあるので、念のため、参考書の記述も併せて確認してみた。本稿では学界で定評のある下記の3冊（9）～11）を確認したが、

9) 相原茂, 石田知子, 戸沼市子. (2016). Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版. 同友社.

10) 刘月华, 潘文娛, 故韓. (2001). 实用现代汉语语法 (增订本). 商务印书馆.

11) 北京大学中国語文学系. (2004). 現代中国語総説. (松岡栄志, 古川裕監訳). 三省堂.

発音の説明にかなりの紙幅を割いた北京大学中国語文学系（2004）でさえ、bo、po、mo、foの組み合わせに関して、「韻母“o”はもっぱら声母“b”“p”“m”“f”と結びつき、他の声母とは結び付かない」（北京大学中国語文学系2004：85）以外の言及がなかった。この結論をつづり上の規則として理解する場合は特に問題がないが、音韻の結合関係としてとらえる場合は大いに議論の余地がある（詳しくは次章で詳述）。しかも文脈上後者である可能性のほうが濃厚である。

一方、音声学専門書の平井（2012）には「/bo/は、/b/の調音に間髪を入れず/o/を発するのに対して、/po/は、/p/の調音に摩擦をさせるための一定時間を費やし、わたり音の/u/が微かに入って/o/が発せられるのである」（平井2012：19）という興味深い記述があった。

## 2.5. 映像資料の場合

参考書のほかに、講義の内容を収録した映像資料も4種類（12）～15）入手した。

12) 「快音」DVD（相原茂. 2003. 発音の基礎から学ぼう中国語. 朝日出版社 付録）

13) 「発音編」DVD（相原茂. 2011. 基礎から学べる中国語＜発音と文法＞. PHP研究所 付録）

14) 「中国語Ⅰ（'14）」（放送大学2015年 衛星放送番組）

15) 「テレビで中国語」（NHKゴガク2017年 地上波放送番組）

内容を確認したところ、ほとんどの教科書や参考書と同じく、母音oと唇音および両者の組み合わせに関しては、ほぼ言及がなかった。

それどころか、出演者の発音を確認しているうちに、現行の教育方法の問題点がますます浮き彫りになってきた。

例えば、資料12)の場合：日本人主任講師と発音の手本を担当する中国人出演者は正しく発音したが、日本人側

の出演者は、まず無気音b (o) のデモンストレーションの際、bouと発音した。有気音p (o) の際は、日本語の「ぽ」で代用した。

資料13) の場合：同じく日本人主任講師と手本を担当する中国人出演者は正しく発音したが、司会者である日本人女性のほうはp (o) を日本語の「ぽ」で代用した。日本人主任講師はそれについて特に指摘や訂正をしなかった。

資料15) はこの問題を意識したのか、有気・無気の区別を導入する際、p (o) / b (o) の組み合わせを避け、pa/baで練習を行った。

## 2.6. 中国語母語話者の困惑

映像資料の中で、最も問題があったのが意外にも資料14) の発音手本を担当する中国人講師であった。

資料14) の手本担当は、第一課の単母音を紹介する際、oの発音は特に問題がなかったが、第二課複合母音uoを紹介する際、資料12) の日本人出演者と同じように、uoではなく、uouに近い音を発した。さらに、子音b (o)、p (o)、m (o)、f (o) を解説する際は、完全に日本語の「ぼ、も、ふぉ」で発音のデモンストレーションを行った。

この教員がなまっているのかというところでもないようである。なぜなら、テキスト本文に出てくる唇音とoの組み合わせの漢字は、すべて非常に正確に発音されている。

(例えば第二課の本文『参观首都博物馆』の「博 (bó)」など)

上記の例で示されたように、この唇音とoの組み合わせには、たとえ中国語教育を専門にする母語話者でさえ時々悩まされている。資料14) の中国人講師はその一人にすぎなかった。

試しに、インターネットで検索してみると、「为什么拼音中bo po mo fo 的发音不是buo puo muo fuo?」(なぜピンインのbo po mo foの発音はbuo puo muo fuoではないのか?)<sup>3</sup>、「关于双唇音b、p、m和唇齿音f与合口呼相拼的问题」(両唇音b、p、m、および唇歯音fと合口呼oの結合について)<sup>4</sup> などの質問は「知乎」、「作业帮」のような大きな掲示板でかなりの数ヒットする。

さらに面白いことに、前者の質問は自己否定 (bo、po、mo、foをbuo、puo、muo、fuoと発音して「しまう」自分の反省) から始まり、後者の質問の現時点 (2019年11月) でのベストアンサーは「你的bo、po、mo、fo的读音实际上偏向buo、puo、muo、fuo的感觉, 正说明你对双唇音b、p、m和唇齿音f与合口呼相拼时的正确读法没有掌握或把握不准, 也说明你在o和uo这两个韵母的正确读法上有误区—这或许和方言 (音) 的影响有关系」(bo、po、mo、foをbuo、puo、muo、fuoと読んでしまう感覚は、両唇音b、p、mと唇歯音f、および母音oとuoに対する認識が間違っているからである。それはもしかして方言の影響かもしれない。)

残念ながら、前者の自己否定も後者の質問へのいわゆる

ベストアンサーも実に大きな誤謬である。

## 3. 文献調査

bō、pō、mō、fōは、果たしてつづりどおり日本語の「ぼ、も、ふぉ」でよいのか、それともほかの読み方があるのか、それを検証する先行研究は、数こそ多くはないものの、すでにいくつかあった。

例えば、朱 (2012) と郭振琴・郭太芳 (2014) は実験の方法を用いて、この課題を検証した。

朱 (2012) は『現代汉语方言库北京语音档』に収録されている北京語bō、mò、huó、duō、guòの音声データに対して音響分析を行い、得たスペクトログラムを確認した結果、「ピンイン標記がoであるかuoであるかを問わず、フォルマント周波数が絶えず変化していること」を明らかにし、母音oは単純母音ではないことを証明した (朱 2012: 17-19)。この経験から、朱はのちに編集した教科書 (朱・崎原2015) にもこの結論を取り入れ、「実際の発音はuoと同じ。『ウー』と発音する」 (朱・崎原 2015: 8) と記述したわけである。

一方、郭振琴・郭太芳 (2014) は、ピンインがbo、po、mo、foで表記される漢字の音声データを 1.直接聴いて確認する 2.ソフトを利用し、音節を伸ばしてもう一度確認する 3.母音oとuoを入れ替えて再度確認する、といった比較的素朴な研究手法で調査し、朱 (2012) に近い「bo、po、mo、fo这几个音节所代表的汉字的实际读音的韵母部分, 并不是以上著作所认为的单元音[o], 而是双元音[uo]或至少与[uo]更为接近」(ピンインがbo、po、mo、foで表記される漢字の組み合わせの実際の発音は一般的に単母音とされる[o]ではなく、複母音[uo]、あるいは[uo]に近いものである)<sup>5</sup> という結論を下した。

この事実、実はすでに50年前の研究に指摘されている。

例えば、趙元任は1968年に刊行された『汉语口语语法』において、「uo在唇音声母后写作o」(唇音子音の後ろにあるuoはoと書く) と記述した。

のちに、王力 (1985: 430) は、「梭波标为[uo], 是符合实际情况的。《中原音韵》的歌戈同, 明清时代的梭波, 都是一个开口[o]。到了现代, 由于韵头[u]的影响, 元音高化, [uo]转变为[uo]。梭波韵只有合口呼[uo]。此部唇音字, 一向属于合口呼。」<sup>6</sup>、「波、婆、磨」三字, 今汉语拼音方案写作bo、po、mo, 只是为了简便, 实际的读音应是[bo, p'uo, muo]。」「(「波、婆、磨」の現代中国語におけるピンイン表記はbo、po、moとなっているが、それはあくまでも簡略化によるもので、実際の発音は[bo, p'uo, muo]である) と断じた。

王力 (1985) の優れたところは、現代中国語のみならず、近世と中世の中国語も同時に対象にしており、いわゆる通時的研究で中国語の音韻の歴史的変遷を踏まえた上で

<sup>3</sup> <https://www.zhihu.com/question/20613966>

<sup>4</sup> <https://www.zybang.com/question/655d3010bde965fc11e08cf65dd5e697.html>

<sup>5</sup> 訳文は断りのない限り、筆者による。以下同。

<sup>6</sup> 伝統的音韻体系「四呼」と近世以降の「唇音字」の母音(uo)の変遷に関する議論であるが、本稿では展開しないため、訳文と議論は割愛する。



【表2 赵1968（訳：吕叔湘1979）：25より】  
第四表 音节类型(续)

介 母	声 母	韵 母			
		u	ua	uo	uai uei uan uen uang ueng
-u	b p m f	不	波*		
	d t n l	都	多	堆	端 敦
	z c s	租	撮	堆	钻 尊
	zh ch sh r	朱 抓 桌	摔sh 追		专 淳 庄
	g k h	姑 瓜 锅	乖 归		官 滚~ 光 翁 <sup>o</sup>
		ü	üe		üan ün
-ü	- - n l	女n~ 略l'			李l' 淋l'
	j q x	居 噉			捐 均

\* uo 在唇音声母后写作 o: “波” bo, “坡” po, “摸” mo, “佛” fo。

議論している研究スケールの大きさにある。

また、王理嘉（2005：6）は、ピンインの正書法『汉语拼音方案』を取り上げ、「早期国語発音学在谈到注音符号拼音设计时曾说过：ㄅ（b）跟ㄨㄛ（uo）相拼时，可以省略中间的ㄨ（u），既然说是省略，可见本来是有u的。当初拼音方案委员会也说明过在bo和buo两种拼音形式中，从节省字母用量考虑，以采用注音符号的省略写法为宜。」

（初期の国語音声学が注音符号<sup>7</sup>のつづり規則についてこう述べたことがある。ㄅ（b）とㄨㄛ（uo）の組み合わせの場合、真ん中のㄨ（u）を省略しても構わない。省略しても可ということは、本来uの音が存在するということである。当初『汉语拼音方案』の検討委員会もboとbuoについて、つづり字の節約という観点から、注音符号にのっとり、省略形を用いるほうが望ましいとしている）と述べた。

残念ながら王理嘉（2005）では、具体的に「初期の国語音声学」とは具体的に専門家の意見なのか、学界の意見なのか、『汉语拼音方案』検討委員会』の委員のだれがいつこう述べたのか、出典や資料を示さなかった。

筆者の調べたところ、注音符号には本来「ㄅㄨㄛㄜ、ㄅㄨㄛㄨㄛ、ㄅㄨㄛㄨㄛㄨㄛ」（ピンインのbuo、puo、muo、fuoに相当する）の組み合わせもあったようだが、ルール修訂後ㄨ（o）の入る形を辞書の注釈の誤りとし（中华民国教育部读音统一会1926：326）、除外した。

注音符号は、ピンインと別システムであり、歴史背景の

問題もかなり複雑であるため、本稿では展開しないことにするが、結果としてピンイン規則の制定に何等かの影響を与えていることは言えよう。いずれにせよ、朱（2012）と郭振琴・郭太芳（2014）の実験結果と王力（1985）、赵（1968）の説明を合わせると現代中国語において、bo、po、mo、foはbuo、puo、muo、fuoの簡略形であることは間違いないようである。

ということは、例えば「韻母“o”はもっぱら声母“b”“p”“m”“f”と結びつき、他の声母とは結び付かない」（北京大学中国語文学系2004：85）、「/bo/は、/b/の調音に間髪を入れず/o/を発する<sup>8</sup>」（平井2012：19）といった参考書や専門書の記述、映像資料の「ぼ、も、ふぉ」で代用するデモンストレーション、掲示板のベストアンサーなどは明らかに事実と異なることになる。むしろよい反例として本稿の取り上げるbo、po、mo、foの特異性を物語っている。

4. 簡略化の是非

4.1. 簡略化の理由

ピンインには多くの簡略化ルールがあることで知られているが（例えば、uenが子音に続くとうんになるなど）、基本は『汉语拼音方案』に何らかの説明がある。しかし、「buo、puo、muo、fuo」に関しては、一切の言及がない。

<sup>7</sup> 中国語の発音記号の一つ。ピンインが普及する前に最もよく使われた音声記号システムであり、現在では主に台湾で使用されている。  
<sup>8</sup> ただし、前出のように、poに関しては、「/p/の調音に摩擦をさせるための一定時間を費やし、わたり音の/u/が微かに入って/o/が発せられるのである」（平井2012：19）とuの挿入を認める記述があった。moとfoに関しては記述なし。

「buo, puo, muo, fuo」のuの省略の根拠として、王理嘉（2005：6）は「汉语の音节，声介結合非常緊密，u是一个圓唇元音，与唇音声母的发音部位是相合的，而且它后面緊接的又是一个比它略低的圓唇元音，于是u的圓唇特征就因为协同发音而跟声母和韵腹結合在一起了」（中国語の音節は、子音と介音<sup>9</sup>の結合が緊密である。円唇母音のuは唇音の発声部位と同じであるため、さらに後ろに低めの円唇母音が来ると、uの円唇特性が同化作用によって子音と主母音とそれぞれ結合し一体化する）と説明した。

ただし、日本語に「ぼ、も、ふぉ」、英語に「pot, mop, fog」があるように、同化による説明はやや強引である。中国語の場合も当てはまるとは限らない。例えば、邓（2009：64-65）は王理嘉（2005）の解釈に対し、方言を取り上げ、「尽管“u的圓唇特征因为协同发音而跟声母和韵母結合在一起”，但这种发音协同是基于普通话（也包括很多北方方言）的发音习惯产生的，对于一些说南方方言和非汉语的学习者来说，唇音声母的后面并不必然地会带一个圓唇介音，这就使得他们学习bo, po, mo, fo时，会按照拼音形式读成[po pho mo fo]。另一方面，很多地方虽然口语中说的是[puo phuo muo fuo]，但教师们受到拼音形式的干扰，认为bo, tuo既然韵母形式有别，理应讲授成不同的音，因而把bo, po, mo, fo教成[po pho mo fo]」（「uの円唇特性が同化作用によって子音と主母音とそれぞれ結合し一体化する」ことは事実だとしても、この同化作用は共通語、または多くの北方方言の発音習慣によるもので、南方方言あるいは外国語の話者にとって、唇音子音の後ろに必ずしも円唇介音を伴うとは限らない。ゆえに、彼らがbo, po, mo, foを学習するとき、つづり通り[po pho mo fo]と発音してしまうことがある。また、普段は正しく[puo phuo muo fuo]のように発音できても、つづりに惑わされ、boとtuoはそれぞれ違う母音との組み合わせなので、当然発音も違うと思ひ込み、bo, po, mo, foをつづり通り[po pho mo fo]と教える教員もいるだろう）と反論した。

本稿の§2.5-2.6で取り上げた学習者と中国語母語話者の誤用例は、まさに邓（2009）の予言したとおりである。前出の朱（2012）も、平山（1972）<sup>10</sup>の観点を引用しつつ反論している。「bo, po, mo, foの母音が二重母音的になるのは、『先行子音が唇音であるため』と説明されることが多いが、平山（1972）で指摘されたように、『唇の上下からの狭めだけでなく左右からの窄めや若干の突出しの要素も加わっているが、唇音声母の調音にこのような窄めや突出しの要素が含まれているとは考えがたい』ため、『単に唇音声母からの同化によるものとしては説明しがたい』（朱2012：18）。

#### 4.2. 諸悪の根源

50年前の研究によって明らかにされたことが、50年後の今もなお尾を引いて、教育の現場で混乱を招き、時には研究者まで困惑させている。その最も根本的な原因は、ピンイン規則の原典である『汉语拼音方案』が注音符号の規

則をそのまま踏襲し、省略であれ、簡略化であれ、その理由や変化規則について、何の説明もなされていないことにあるのではないかと思わざるを得ない。

中国語教員のほとんどは音声学を専門にしておらず、『汉语拼音方案』に説明がない＝説明が要らないと判断するのも至極当然のことである。中国語母語話者の筆者でさえも王力や趙元任の著作にたどり着くまでは、自分が間違っているのか、それとも教科書や参考書の記述が間違っているのか、ずいぶん苦慮してした。

### 5. 筆者の提言（終わりに代えて）

最後に、筆者の提言をもって本稿を終えたい。

前章で述べたように、すべての問題は『汉语拼音方案』に説明がなかったことに由来している。音声教育の場合は、いまだに「習うより慣れよ」の考えが優勢であることもこの問題を顕在化させなくしている。

そのため、目下の急務は下記の3点考えられる。

#### a) 事実の周知

事実の周知に関しては、独創性や学術的価値を求める学会誌の投稿等は、かえって今回のような情報の共有と周知を阻んでいるようにも思える。bo, po, mo, fo=buo, puo, muo, fuoのような、先行研究があるにも関わらず、まったく注目されていない発見や情報は、独創性の関係で再び学会誌に掲載されることは基本ない。これらの発見や情報を、分野の枠を取っ払い、もう一度共有できる場を設け、場合によってはデータベースを構築し、蓄積していくことを学界に提案したい。

#### b) 教科書や参考書の改訂

それから、本稿で指摘したように、2019年の現時点でも、ほとんどの教科書はbo, po, mo, foについて何の記述もない。唯一記述のある朱・崎原（2015）の記述「（母音oの）実際の発音はuoと同じ。『ウオー』と発音する」も最良とは言えない。

なぜなら、母音oは唇音につく以外、

①「哦」や「噢」などの漢字の発音を単独に標識している。数は限られているが、これらの漢字は「wo (uo)」と発音されない。

②母音oはou, uo, iouなどの複合母音にも現れるため、「o=uo」の説明は新たな誤解を招きかねない。

③唇音以外の場合、tuo, duoがあるように、uが省略できないため、「uoと同じ」を教え込むと、今度はto, doのようなつづりが現れるかもしれない。

したがって、筆者はoを単母音として認めること自体問題がないと思うが、唇音を導入する際は、buo, puo, muo, fuoから導入し、ルール上はuを消し、bo, po, mo, foに簡略すると記述すべきだと考えている。

#### c) 指導法の改良

教育現場での指導法も教科書の記述に合わせ、母音のo自体は単母音として導入して構わない。ただし、唇音を導入する際は、以下の方法がより妥当であろう。

<sup>9</sup> 中国音韻学で、頭子音と母音との間に入る半母音、例えばi, uなど。

<sup>10</sup> 文献名等は朱（2012）の本文を参照されたい。

- ①映像資料15)の教え方のように、とりあえずoとの結合を避けて、pa/baの対立で有気・無気の弁別を説明し、練習してもらう。
- ②子音表を導入する際は、buo、puo、muo、fuoから導入し、bo、po、mo、foはその省略形であることを強調する。また書き取りなどで意識的にbo、po、mo、foの組み合わせを取り入れ、ルールの定着をはかる。
- ③「子音だけでは発音は弱いので、母音をつけて発音する」という慣習自体cv構造の中国語や日本語特有の問題で、英語やフランス語などは、子音だけでも発音可能なため、義務教育で必ず英語を習う日本人学生に対して、母音を代入しない子音だけの練習も可能であると考えられる。

#### 参考文献（ピンイン順）

- 邓文靖.2009.字母o在汉语拼音中的音值.《汉字文化》2:64-66  
郭振琴,郭太芳.2014.探究音节bo、po、mo、fo韵母的实际发音.《青年  
记者》23:113-114  
平井勝利.2012.『教師のための中国語音声学』.白帝社  
王力.1985.《汉语语音史》.中国社会科学出版社:414-489  
王理嘉.2005.《汉语拼音方案》与世界汉语语音教学.《世界汉语教学》  
02:5-11  
赵元任.1968(訳:吕叔湘1979).《汉语口语语法》.商务印书馆:24-  
40  
中华民国教育部读音统一会.1926.《校改国音字典》.商务印书馆:326  
朱春躍.2012.中国語発音教育の問題点——音声研究成果の教育への応  
用.『中国語教育』10:10-24

#### \*教科書・参考書・映像資料リスト

- 1) 小野秀樹, 木村英樹, 張麗群, 楊凱栄, 吉川雅之. 2013. 現代漢語基礎  
(改訂版). 白帝社.
- 2) 陳淑梅, 劉光赤. 2014. シャベっていいとも中国語 トータル版. 朝日  
出版社.
- 3) 劉穎, 塚本慶一. 2014. 最新版 1年生のコミュニケーション中国語.  
白水社.
- 4) 岩井伸子, 胡興智. 2015. できる・つたわるコミュニケーション中国  
語. 白水社.
- 5) 朱春躍, 崎原麗霞. 2015. Start! キャンパス中国語. 朝日出版社.
- 6) 竹島毅, 趙昕. 2015. さあ、中国語を学ぼう!一会話・講読. 白水社.
- 7) 楊凱栄, 張麗群. 2015. LOVE! 上海. 朝日出版社.
- 8) 相原茂, 蘇紅. 2017. どうちがう?似たもの中国語. 朝日出版社.
- 9) 相原茂, 石田知子, 戸沼市子. 2016. Why?にこたえるはじめての中国  
語の文法書 新訂版. 同学社.
- 10) 刘月华, 潘文娉, 故韡. 2001. 实用现代汉语语法(增订本). 商务印书馆.
- 11) 北京大学中国語言文学系. 2004. 現代中国語総説.(松岡栄志, 古川  
裕監訳.). 三省堂.
- 12) 「快音」DVD(相原茂. 2003. 発音の基礎から学ぶ中国語. 朝日出版  
社 付録)
- 13) 「発音編」DVD(相原茂. 2011. 基礎から学べる中国語<発音と文法>.  
PHP研究所 付録)
- 14) 「中国語Ⅰ(14)」(放送大学2015年 衛星放送番組)
- 15) 「テレビで中国語」(NHKゴガク2017年 地上波放送番組)